

Index

- P2:第43回全国フロントマン選抜技術競技会報告
- P5:TECHNICAL INFORMATION「新冷媒 HFO-1234yfについて」
- P3:フロントマン競技会最優秀賞受賞者訪問
- P8:平成30年度 地区別協議会/コグニビジョン株式会社からのお知らせ
- P4:リボンキャンペーン



第43回 全国フロントマン 選抜技術競技会が 開催されました。



43回大会に出場した18名のフロントマンの皆さん

精鋭フロントマン18名が損害修理見積の技術を競いました。

J A 共済自動車指定工場協力会〔愛称：JARIC（ジェイエリック）〕では、平成30年11月9日（金）、10日（土）の2日間、J A 共済幕張研修センター（千葉市）にて、「第43回全国フロントマン選抜技術競技会」を開催しました。

全国の自動車整備・修理工場約1,700社が会員として加盟し

ている協力会主催のこの競技会は、各県選抜のプロ競技に先立ち行なわれた開会式では、主催者を代表して挨拶されたJARIC 本島直幸会長は、「JARICは、この度50周年を迎える。半世紀にわたり活動できたのも各指定工場の皆さまをはじめ、JA・JA 共済連の協力があるからこそです」と関係各位に感謝の言葉を述べられるとともに、「我々は、常に迅速・正確な対応を心がけ、お客さまがお困りの際の一貫した丁寧な対応こそが、信頼・満足度の獲得や、契約の継続につながる」と述べられました。そして「本日までご参加の皆さまは、第一線でご活躍されている方々であり、日ごろの成果を存分に発揮してくれることを期待します」と挨拶されました。

競技は、初日に行われ、フロントボディを損傷したトヨタ・ウィッシュとリアボディを損傷したホンダ・N-WGNを使用し、参加者は1台につき制限時間110分間で損害箇所チェックやパーツ交換の必要性の有無、工賃選定などを見極め、損害修理見積書の作成に取り組みしました。



挨拶する本島会長



見積競技の様子〔フロント損傷車〕

第43回全国フロントマン選抜技術競技会の競技結果

福岡県の木村 敏博さんが最優秀賞

競技者が作成した見積書は全国技術アジャスター協会の平林康男会長をはじめとする5名の審査員が、その精度を審査しました。その結果、今大会では、福岡県の木村 敏博 様（有限会社糸島モータース）が最優秀賞に選出されました。そのほかの受賞された皆さまは以下の通りです。

最優秀賞

福岡県 木村 敏博（有限会社 糸島モータース）



最優秀賞の木村さんと本島会長

優秀賞

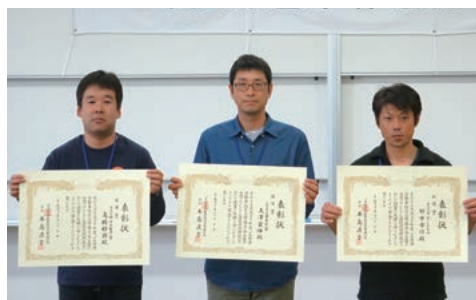
宮崎県 古川 義直（有限会社 古川自動車）
佐賀県 城島 勝彦（株式会社 城島自動車）
福島県 塩原 祐太郎（有限会社 塩原自動車工業）



優秀賞の皆さん
（左から、古川さん、
城島さん、塩原さん）

敢闘賞

岩手県 高橋 好朗（株式会社 姉妹自動車工業）
熊本県 大津 栄伸（有限会社 大津車体工業）
大分県 野中 晋作（株式会社 カーポートタナカ）



敢闘賞の皆さん
（左から、高橋さん、
大津さん、野中さん）

第43回全国フロントマン選抜技術競技会 最優秀賞受賞者インタビュー

(左)木村 敏博さん、(右)代表取締役 東江 孝さん ▶



「第43回全国フロントマン選抜技術競技会」最優秀賞を受賞された有限会社糸島モータース木村 敏博さんのもとを訪ね、受賞の感想や仕事に対する思い、今後の抱負についてお話を伺いました。

最優秀受賞者 木村 敏博さんに
お聞きしました。

最優秀賞受賞のご感想をお聞かせください。

全国フロントマン選抜技術競技会には二度目の出場となりましたが、今回は入賞できるように頑張ろうと強い決意をもって臨みましたので、最優秀賞を受賞できうれしく思います。

普段は見積ソフトを使用しているため、県代表が決まると、手書き見積りの勉強を行いました。

手書き見積りでは、見積り手順が大事ですが、パーツリストや指数表を見ないといけないので、そこで時間がかかってしまう状況が生じます。ソフトを使うと簡単なのですが、パーツリストをみて作成するのは大変な作業だと思います。経験と勘がものをいう部分もあります。

現車確認においては、まず車から少し離れて、全体を見て損傷の波及具合を見ることから始め、最終的に力の波及部位まで見極めていくようにしています。入力箇所から波及状況を推測し、実際にその部分が損傷しているかを確認する手順が重要だと思います。

特に、今回はリヤの損傷見積りが難しいと思いました。損傷の大きさからして、ルーフの右側にも波及していると思いま

したが、ルーフを確認してみると両サイドともセンターピラーの上で座屈していました。やはり、損傷の波及をイメージすることが大切です。

また、競技会では、自分のペースでクルマの損傷を見ていくことができないので、時間管理に気をつけながら作成にあたりました。

お客さま対応においては、どのようなことを心がけていますか。

お客様のご要望をお聞きし、キチンと説明できる見積りをつくることを心がけています。

事故割増の影響もあり、修理費を抑えられるリサイクルパーツを活用した修理要望も増えています。修理着工前にお客様と意思疎通を図り、仕上がりを見ていただいたときに納得して喜んでいただけるよう心がけています。

また、お客様のご来店時の対応においては、挨拶やお見送り等を行います。事前に来店の連絡があったお客様には、お名前呼びかけするようにし、連絡を受けていることの安心感をもっていただけるよう心がけています。

JA・JA共済連との連携については、どのようにされていますか。

JA糸島の本店がすぐそばにあるので、普段から頻繁に連絡を取りに行くことができます。

JA審査員との搬入対策会議は、年2回実施されていますので、情報連携だけではなく、交流の場としても重要です。

また、春の人事異動の時期にはJAの各支店を訪問しています。

来年度は、JAの支店担当者にご参加いただく工場見学会も実施する予定ですので、指定工場への理解も深めていただけることと思っています。

さらに、福岡県央地区においては、年に2回ほど、指定工場、JA、SCの方が集まる合同会議が開催されていることから、情報交換や信頼関係づくりに役立っています。

有限会社糸島モータース 代表取締役
東江 孝さんにお聞きしました。

御社の抱負や今後の方向性について
お聞かせください。

お客さまへのサービスは、無料代車として軽自動車を中心に普通自動車30台以上用意し、ETC付きの代車等もご要望に応じ対応させていただいています。

修理においては、当社で鈑金修理した箇所について、ワンオーナーの保証をつけています。



有限会社糸島モータース 外観

また、見積りについては、インターネット・携帯電話・スマートフォンから鈑金の見積りができる簡単・便利なサービスによる見積りも行っており、アクセス数も増加しています。

車検についても、お客様のニーズに答えられるよう各種パターンを揃えており、最短30分で検査等が終了できるようにしています。

昨今は、お客様のニーズや要望も様々ですが、たくさんある工場の中から当社を選んでいただき、お客様から「ありがとう」と言ってもらえるような地域密着の工場を目指しています。そのためには、人材教育・機器・設備の充実を念頭に、安心して信用いただける地域ナンバー1の工場にしたいと思っています。



有限会社糸島モータースの皆さん

リボン キャンペーン

JA共済では、資源の有効利用や地球環境の保護を目的とした運動を「リボンキャンペーン」と名づけ、毎年実施しており、今年度は「We love リサイクルパーツ!」をキャッチフレーズに展開しています。

この運動では、事故の修理のときばかりでなく、広く一般的な修理や車検などのときにも、クルマの損傷箇所を、新品と交換せずに補修していただいたり、リサイクル部品を使っていただけるようポスター等を作成、啓発活動を行っています。

また、環境保護が大切なのはもちろんですが、クルマのオーナーであれば誰しも、修理などの出費は、「できるだけ低く抑えたい!」というのが本音。こんなとき補修したり、リサイクル部品を使って直せば、修理代をグリーンと減らすことができます。

このように、地球環境にもお財布にもやさしい、「補修」と「リサイクル部品」を活用していただくために、JA共済自動車指定工場協会としても、JA共済のリボンキャンペーンの取り組みに協力し、リサイクル部品の活用など環境に配慮した事業活動に取り組んでいます。

修理だけではなく、整備・車検のときにも、リサイクルパーツを使用できます!

JA共済では「リボンキャンペーン」を推進しています。車の修理や車検時に、不具合部分はできるだけ補修したり、部品交換が必要になった場合には、新品ではなくリサイクルパーツを使用することで、資源の有効活用と環境保護に貢献する取り組みです。

新冷媒 HFO-1234yfについて

はじめに

自動車用エアコンの冷媒として、古くはCFC-12 (=R12: 特定フロン) が使用されていましたが、オゾン層の破壊という環境問題から、90年代にはHFC-134a (=R134a: 代替フロン) に切り替わり現在の主流となっています。しかしながら、この代替フロンも地球温暖化係数 (GWP: Global Warming Potential) が高い温室効果ガスであるため、この温暖化係数が小さい (環境負

荷が小さい) 新たな冷媒が求められていました。そこで登場したのがHFO-1234yf (=R1234yf) です。

この新冷媒は、輸入車の一部にみられるのみでしたが、最近は国内販売される新型車にも採用されはじめていますので、その特徴や採用車種、整備上の注意点等について紹介します。

HFO-1234yfの特徴

● GWPが1以下と小さい (GWP: CO₂=1)

[HFC-134a: GWP1,430 →
HFO-1234yf: GWP1]

● 大気開放が可能

GWPが小さいことからフロン排出抑制法に規定するフロン類には該当しませんので、リサイクル法にもとづく回収義務の対象ではありません。したがって、法的 (2018年11月現在) には大気開放が可能です。

● 価格が高額

GWPが小さいことからフロン排出抑制法に規定するフロン類には該当しませんので、リサイクル法にもとづく回収義務の対象ではありません。したがって、法的 (2018年11月現在) には大気開放が可能です。

● 燃焼性がある

燃焼性を僅かに有し、高圧ガス保安法上の特定不活性ガスに該当します。取り扱いについては高圧ガス保安法に従うとともに、大気開放を行う場合には、火気を取り扱う場所や引火性の物のある場所を避け、風通しの良い場所で少量ずつ放出する必要があります。

採用車種

メーカー	車種名	型式	採用時期	使用量
トヨタ	CENTURY	UWG60系	2018年6月	770±30g
	CROWN CROWN HYBRID	ARS220系 AZSH2 # 系 GWS224系	2018年6月	リヤクーラなし 600±30g リヤクーラあり 800±30g
	COROLLA SPORT COROLLA SPORT HYBRID	NRE21#H系 ZWE211H系	2018年6月	470±30g
レクサス	LS500 LS500H	GVF5# VXFA5#	2017年10月	LS500H 600±30g EXECUTIVEは750±30g LS500 650±30g EXECUTIVEは970±30g
	ES300H	AXZH10	2018年10月	550±30g
ホンダ	CLARITY PLUG-IN HYBRID	ZC5型	2018年7月	420±25g
	CLARITY FUEL CELL	ZC4型	2016年8月	430±25g
	Fit EV	ZA2型	2012年8月	400±25g

※国産乗用車におけるHFO-1234yf採用車 2018年11月現在

整備上の注意点

● 整備機器について

サービスポートなどの冷媒サイクル構成部品は、HFO-1234yfのシステムと従来のHFC-134aのシステムでの互換性はありません。充填や回収等の整備作業には、HFO-1234yfのシステムに対応した整備機器を使用する必要があります。

<HFO-1234yf用整備機器の例>



HFO-1234yf用全自動回収再生充填装置



HFO-1234yf用チャージセット

(画像提供: デンゲン株式会社)

● 燃焼性対策について

HFO-1234yfは可燃性を有するため、作業を行う際には火気の近辺を避けるとともに、十分な換気を行ってください。(このガスは空気より重いため、リフト下やピットなどガスが溜まりやすい場所は特に注意が必要です。)

● 回収・再使用について

整備や損傷車両の修理などで、冷媒が残っているクーラー配管を縁切りする際は、前述のとおり大気開放が可能です。冷媒の費用がユーザー負担となることを考慮すると、回収・再使用が望ましいと考えられます。

回収には、HFO-1234yfに対応した回収機を使用する必要がありますが、回収機がない場合は、自動車電装業者等に回収・充填を依頼する方法もあります。

● コンプレッサオイルについて

コンプレッサオイルは指定のオイルを使用し、他のオイルが混入しないように注意してください。指定以外のオイルは効果的に機能しないだけでなく、冷媒や樹脂パーツの劣化を招くことがあります。

指定オイル: 例 (トヨタ COROLLA SPORTS)

ガソリン車 : ND-OIL12

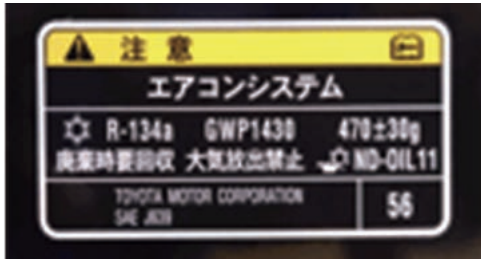
ハイブリッド車 : ND-OIL11

※ND-OIL11については、従来のHFC-134aのハイブリッド車にも使用されています。

※上記指定オイルは例です。作業時は必ず車種ごとのサービスマニュアルを確認してください。

参考：コーションラベルおよびサービスポートの比較

冷媒の種類、コンプレッサオイルの種類、冷媒の使用量はボンネット裏などに貼付されているコーションラベルで確認できます。また、サービスポートおよびキャップはHFC-134aと似ていますが、形状が異なり互換性はありません。

	HFO-1234yf (CROWN HYBRID GWS224)	HFC-134a (PRIUS ZVW50)
コーションラベル		
低圧側サービスポート		
高圧側サービスポート		

まとめ

国内では、改正フロン排出抑制法（2015年4月1日施行）において、2023年度までに自動車用エアコンの冷媒のGWPを150以下にすることが求められていますので、将来的に現在のHFC-134aは新型車への採用が不可能になります。欧州や米国でも同様の規制は行われており、世界的にもHFC-134a使用車が減少します。

このように、今後数年の間には、新冷媒への切り替えが急速に進むと予想されます。新冷媒としては、今回紹介したHFO-1234yf以外に、自然冷媒のCO₂（二酸化炭素）も欧州の一部メーカーで採用されています。しかしながら、大半のメーカーではHFO-1234yfの採用を進めていますので、今後の主流はHFO-1234yfになると予想されています。

新冷媒の採用車種が増加することや、それに伴って冷媒や整備機器の価格等が変動することも予想されますので、今後も新冷媒の動向には注目しておく必要があります。

平成30年度 JARIC地区別協議会が開催されました

平成30年度JARIC地区別協議会が例年通り全国6地区において下図の日程で開催されました。各地区の活動状況・各県独自の取り組み状況の報告に続いて、次年度の事業計画等について活発な議論がなされました。

今後、平成30年度以降の事業計画を策定することとしており、協力会活動のさらなる活性化に努める方針です。また、今回の地区別協議会の開催にあたり、幹事会を担当していただいたJARIC各県本部ならびにJA共済連各県本部の多大なるご協力につきまして、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

地 区	幹事県	日 程
東北・北海道地区	山形県	10月16日(火)ー10月17日(水)
関東・甲信越地区	東京都	9月13日(木)ー9月14日(金)
東海・北陸地区	石川県	10月12日(金)ー10月13日(土)
近畿地区	京都府	10月4日(木)ー10月5日(金)
中国・四国地区	鳥取県	11月13日(火)ー11月14日(水)
九州地区	長崎県	11月22日(木)ー11月23日(金)

コグニビジョン株式会社からのお知らせ

事故車修理費見積りシステム

cogniSEVEN

コグニセブン

デモンストレーション キャンペーン!

キャンペーン期間 2018.11.16 ▶ 2019.3.12

＼ 選べるプレゼント特典 ＼

キャンペーン期間中に、
事故車修理費見積りシステムコグニセブンの
デモンストレーションをご希望され、実施された方に
「オートディスペンサー」か
「サーモステンレスボトル」をプレゼント!




お気軽にお申込みください!

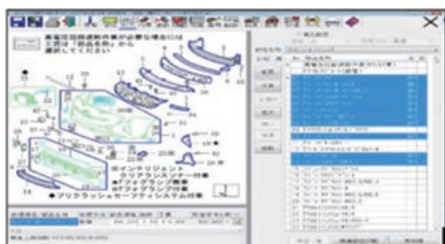
この機会に
コグニセブンを
ご体験ください

事故車修理費見積りシステム

cogniSEVEN

コグニセブン

タッチパネルにも対応♪



JA 損調の鑑定士も日頃から「コグニセブン」を使用しています!

●部品図をクリック

部品代と作業工賃が自動計算!!

●コグニフォトベース完全連動

画像と見積書を損害保険会社・共済組合さまへ簡単伝送! ※一部除く

●技術情報を閲覧

構造調査シリーズやボデー寸法図などの各種情報を集録!!

【コグニビジョン株式会社】 営業部営業課 JARIC 担当 03-5351-1901